

仕合わせの和



第259号

令和5年10.1
(毎月1日発行)

懺悔(さんげ)

住職 谷川寛俊

今年の夏は異常気象とも言うべき30度以上の猛暑日が37日間連続という大記録を作ったかと思うと、線状降水帯が発生し、まさにバケツをひっくり返したと思わせるような大粒の雨が降り、ご命日に何う家の玄関先で車から降りられず、車の中で10分から15分、小雨になるのを待ったこともあり、初めての経験ばかりでした。

でも「暑さ寒さも彼岸まで」のことうざ通り九月のお彼岸を迎える頃には、夜風が涼しくなってまいりました。いよいよ本格的な秋風ですね。秋といえば何を連想されるでしょうか？
読者の秋・スポーツの秋などなど、私にとっては「食欲の秋」が一番です。いつも気をつけなければいけないながらもつつい食べ過ぎて、この

時期の常です。皆様はいかがでしょうか？

さて仏教には懺悔(さんげ)という言葉があります。一般的には「さんげ」とも言います。懺悔とは、自らの過ちを悔(く)い改めることです。

因果応報という言葉は仏教用語ですが皆様ご存知の事と思います。分かりやすく言うならば、善い行い(因)をすれば、結果(果)が良くなる。逆に悪い行い(因)をすれば結果(果)は悪くなる。これらは厳正なる理(ことわり)であります。

もつと悪いのは、犯した過ちに本人が全く気づいていないという場合もあります。しかしいつか気づいて心の底から懺悔し、善い行いを積み重ねていくことで、今までの罪障を消滅させる不思議な作用があるのです。仏教用語で善根功德とか積功累徳(しゃつくるいとく)という言葉で表現されます。

現代人は、今最も時間に追われていると言われています。前進こそが正義

真成寺ホームページ



編集・発行

玉蓮山 真成寺

編集部 谷川久仁子

TEL・FAX 0765-22-2268

携帯 080-3744-2523

こちらの番号でもお寺につながります。

とされる今、自らの心身・行動を懺悔し、時には後ろを振り返る余裕と時間があってもいいのではないのでしょうか。一日数分でもいいのです。自らを省みる時間を作ってみては如何でしょうか。きっと新しい発見があることでしょう。

合掌



反省のないところに修養はなく
修養のないところには
向上はない